

株式会社懸樋工務店



— [会社概要] —

鳥取県の建物や施設を数多く手掛ける総合建設会社。学校や工場、店舗など、街のさまざまな建物の設計から建設までを一貫して担う。鳥取県東部で唯一の社内設計部門を持ち、年間300件以上の施工実績を誇る。建物を長く大切に使う理念のもと、建設後のメンテナンスまでトータルにサポート。また、ゴルフ練習場やフィットネス施設の運営など、建設以外の事業にも積極的に挑戦している。

会社HP



YouTube



Instagram



会社名：株式会社懸樋工務店（鳥取事業所）

業種：建設業

場所：〒680-1417
鳥取県鳥取市桂見573番地

【企業をひとことで（誰に向けて・何を提供している会社か）】

誰に？：鳥取県東部を中心とした地域の企業や団体に
何を？：「建物を建てたい」という相談から、設計図作り、実際の建設工事、その後の建物の維持管理まで一貫してサポートしている

経営者インタビュー

【経歴】

鳥取で育ち、埼玉の大学で経営学を学びました。卒業後、建設系の専門学校へ進学し、その後、埼玉の建設会社で現場監督として4年半勤務。阪神淡路大震災の復旧工事なども経験しました。1998年に地元の家業に戻り常務に就任。主に営業を担当し、2007年からは社長を務めています。五代目棟梁として、伝統を守りながら会社の発展に努めています。

【学生時代や若手社会人時代に、どのような経験をされましたか？】

実は最初から建設業を目指していたわけではありません。大学では経営学を学び、当時流行りだった金融業界への就職も一度は考えました。ただ、なんとなくその業界のスタイルが自分に合わないと感じていて。そんな時、建設系の専門学校に進学することを決めました。これは家業が建設会社だったからということもありますが、専門学校での2年間が転機になりました。図面を引いたり測量をしたりする実習がとても楽しくて、大学4年間と同じくらい充実していたように感じます。そこで建設の仕事の面白さに目覚めたんです。

【社長として大切にされていることは何ですか？】

私は五代目として、先代から受け継いだ基盤をさらに発展させていくことが役割だと考えています。特に、新しい鳥取をビルディングしていくという思いで、次の世代に向けて「これならやってみたい」と思える会社づくりを心がけています。70年の歴史の中で培ってきた技術やノウハウを大切にしながら、地域社会の発展に貢献できる新しい価値を創造していきたいと思っています。特に力を入れているのは、働く環境の整備です。例えば、当社が手がける工場や事務所の建設では、単に建物を建てるだけでなく、そこで働く人々の環境をトータルで考えた提案をしています。自社でもゴルフ練習場やフィットネス施設の運営を通じて、空間づくりの実験をしているんです。トイレの美しさにこだわったり、バリアフリー化を進めたり。最近では、オリジナルのアロマを開発して、空間の香りまでデザインしています。

【懸樋工務店さんならではの特徴を教えてください。】

特別なスキルは必要としていません。大切なのは、当社の価値観に共感してもらえるかどうかです。プログラミングなどの技術は入社後に身につけることができます。むしろ、目の前の人を大切にできる姿勢、当たり前のことを当たり前でできる誠実さ、そういった人間性を重視しています。せっかくの縁で当社を選んでくださった方には、この会社で働くことを通じて、少しでも良い経験をしていただきたいと考えています。



役職：代表取締役社長【五代目棟梁】

かけひ よしき
懸樋 義樹 さん

【就職活動中の学生に伝えたいことはありますか？】

建設業というと、体育会系で厳しいイメージがあるかもしれませんが、確かに現場では体力も必要ですが、それ以上に大切なのはコミュニケーション能力です。技術者や職人さんなど、様々な立場の方々と協力して一つの建物を作り上げていくので、調整力や問題解決力が必要になります。やりがいのある仕事なので、ぜひ建設業にも目を向けてほしいですね。そして何より、自分が作った建物が街に残り、多くの人に使われていく。そんなやりがいを味わえる仕事です。



社員インタビュー



川崎 蒼さん

入社歴:入社2年目
所属:現場監督
出身:滋賀県出身

〳〵 Q 入社を決めた理由を教えてください。〳〵

学生時代に建築を学ぶ学生団体の活動で、現場見学をさせていただく機会がありました。大手企業に負けない技術力を持ちながら、建物を建てた後のことまで考えて事業を展開している姿勢に惹かれました。

また、地域に密着した建設会社で働きたいという思いがあり、いろいろな会社を見学する中で、懸樋工務店の取り組みが自分の考えに最も近いと感じて志望しました。

〳〵 Q 実際に働いてみて、想像と違った点がありますか？〳〵

強いて言うなら、社員の年齢層が幅広いという点です。学生時代まではほぼ同年代としか関わってこなかったのが、最初は年上の方々とコミュニケーションに苦労しました。ただ、皆さんとても親切で、わからないことを質問すると丁寧に教えてくださいました。また、現場監督は体力も必要で、当初は疲れてすぐに寝てしまうこともありました。今では大分体が慣れてきました。

〳〵 Q 会社の好きなところを教えてください。〳〵

困ったときの助け合いの文化です。入社して間もない頃、初めて1.5tトラックの運転をした時のことです。途中でどうしても不安を感じてしまい、ある先輩に連絡したところ、なんと3台の車でサポートに来てくださいました。また、社員の自由なアイデアを受け入れる社風も魅力です。誰かが「流しそうめんがしたい」とボソッとやったことから、本格的な竹を使った流しそうめん大会が実現したこともありました。



〳〵 Q 地方の建設会社で働くことの魅力を教えてください。〳〵

鳥取市内の現場が中心なので、自分が携わった建物が街の一部となっていく様子を間近で見られることが魅力です。また、基本的に転勤がなく、定住できることも地方企業ならではのメリットだと思います。遠方の現場の場合も、会社が宿舎を用意してくれたり、交通費や出張手当もしっかりと支給されるなど、待遇面でのサポートも手厚いです。地域密着だからこそ、お客様との距離が近く、建物を建てた後も長いお付き合いができることにやりがいを感じています。

〳〵 Q 現場監督としての1日の流れを教えてください。〳〵

現場によって異なりますが、基本的に朝は7時半頃に出社します。現在の現場は駅前で駐車場の確保が難しいため、7時には現地に着くようになっています。現場では写真撮影や工程管理、協力業者さんとの打ち合わせなどを行い、だいたい夕方6時頃には業務を終えます。以前は遅くまで残業する文化もあったようですが、今は働き方改革で残業を減らす取り組みを進めています。



〳〵 Q 現場監督として、やりがいを感じる瞬間はありますか？〳〵

実際に二つの現場を終えましたが、確かに忙しくて大変な時期もありました。でも今振り返ると、楽しかったことの方が記憶に強く残っています。建物が日々形作られていく様子を間近で見られることはもちろん、様々な職人さんと協力して一つのものを作り上げていく過程にやりがいを感じます。特に現場監督は、建物の品質管理から工程の管理まで幅広い役割を担うので、完成したときの達成感は大きいです。



学生インタビュー



岡本 紘輝 工学部 2年

前に一度、お話を聞いたことがあり、どのような企業かはなんとなく知っていました。しかし、今回新卒の社員さんのお話を聞いて、大学生のうちにもどのようなことをしておいたらよいか、どんなところが大変で、どんな仕事がやりがいを感じられるかなど、貴重な現場の話を知ることができ、将来について深く考える良い機会になったと感じます。大学生のうち、就職に必要なスキルや資格をとっておきたいです。後悔のない大学生活を送ります！

堀浩太朗 農学部 1年

工務店でありながらもたくさんの事業を行っていることに驚きました。大切にしている本質は地域社会や新しい鳥取をビルディングしていくことという言葉を知り、工務店さんのプライドを感じることができました。また発注されたお仕事以外にも地域清掃といった地域貢献も積極的に行っているという温かい一面も学ぶことができました。自分も将来はブルックリンプロジェクトで建てられた家に住んでみたいと思いました。

